

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：加茂郡富加町立富加小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

月日	主 取 組 内 容
4月 3日	第1回 研究推進委員会
4月 6日	第2回 研究推進委員会
4月12日	第1回 全校研究会
5月28日	第3回 研究推進委員会
6月 5日	第2回 全校研究会(研究授業、授業研究会・・・3年生 「Body Parts」) HRT、ALT、JTEの役割分担は児童が楽しく活動するために適切であったか。 班ごとの福笑いゲームを仕組んだことが、一人ひとりの児童に積極的に仲間とかかわろうとする意欲につながったか。
6月22日	第4回 研究推進委員会
7月 5日	第3回 全校研究会(研究授業、授業研究会・・・2年生 「Vegetables」) 自分たちが生活科で育てている身近な野菜を Topic として扱ったことが児童が楽しく活動する姿につながったか。 児童同士がお店屋さんとお客さんの両方を体験するゲームを仕組んだことが「話したい」「聞きたい」という意欲につながり、英語で会話できる喜びや満足感につながったか。
7月18日	第5回 研究推進委員会
7月23日	第4回 全校研究会
8月29日	職員研修会(講師：前可児市ALT)
9月16日	第6回 研究推進委員会
10月 3日	第5回 全校研究会(研究授業、授業研究会・・・1年生 「Number」) フラッシュカードやタンパリンを用いたリズムカルな発音が、次のゲームを通して覚えることにつながったか。 Activities を2つに分け、2種類のゲームを行うことで最後まで楽しく活動することにつながったか。
10月26日	第7回 研究推進委員会
11月14日	第6回 全校研究会(研究授業、授業研究会・・・6年生 「Christmas Card」) 児童が楽しく活動するために、パソコンを使用しての指導は効果的であったか。 ペアによる活動を位置付けることが、お互いに「話したい」「聞きたい」という願いをもつことにつながり、主体的に英語で会話しようとする姿につながったか。
11月30日	瑞穂市立生津小学校公表会参観
12月 7日	第8回 研究推進委員会
1月14日	第9回 研究推進委員会
1月24日	第10回 研究推進委員会
1月25日	第4回全国小学校英語活動実践研究大会に参加
1月26日	〃
2月 7日	第11回 研究推進委員会
2月15日	可茂地区実践交流会 5年生公開授業「町案内」
2月28日	県における拠点校連絡協議会 (研究推進委員長参加)

2 本校における取組の具体的な内容

(1) 教員の指導力向上のための取組について

HRT による新しい年間指導計画と活動指導案の作成

昨年度までの本校の英語活動は、指導計画の作成、授業中の指導とともにALTが主体となっていた。小学校の英語活動の目指すものを改めて全職員で共通理解を図り、英語教育との違いや児童の実態を最も把握している学級担任が指導の主体となる必然性があること等を理解し、まず、指導計画や活動案を学級担任が、ALTやJTEと相談しながらも主体となって作成した。指導計画や活動案の作成から学級担任が主体となることで、学級担任が指導の主体となった授業にもなっていた。

夏季休業中における職員研修

小学校の英語活動の経験が豊富なALTを講師として、職員の英語活動の指導力向上を図った。

研修内容

- ・すぐに使えるようにしよう Classroom English !
- ・単位時間の指導過程とTTにおけるHRTとALTの役割分担の在り方
- ・ゲーム活動の講習



発表会、研究大会への参加

平成19年11月30日(金) 岐阜県瑞穂市立生津小学校公表会参観

平成19年12月14日(金) 第5回京都市小学校英語活動研究大会に参加

平成20年1月25日(金)、26日(土) 第4回全国小学校英語活動実践研究大会に参加

県内の実践校の公表会の参観や他府県での英語活動の研究大会に参会して、小学校の英語活動の在り方の理解を深めたり、優れた実践を本校の研究授業や日常の実践に取り入れたりした。

(2) 効果的な指導方法の工夫改善について

今年度は、児童が意欲的に活動できる英語活動の時間の工夫を重点にして、研究推進委員会や全校研究会を中心にして指導方法の工夫改善に取り組んだ。

「児童の興味・関心を引く身近な題材を重視し、実際の場に生かせる工夫」について

第3回全校研究会 7月5日(木)から

2年1組 授業者 HRT・ALT・JTE

Topic Vegetables (3/3)

本時の活動は、2年生の児童たちにとって一番身近で興味のもてる『野菜』を題材に取り上げた。また、活動で扱う単語もすべて自分たちの畑で育てている野菜にした。そうすることで、英語活動のための時間ではなく、生活の場に生かせる英語活動になると考えた。また、第1回の全校研究会を受け、Activityでのゲームは途中で中間評価を入れ、児童たちの活動に高まりや広がりを感じられるようにした。授業では、自分たちが畑で育てている野菜を売ったり、買ったりして自分だけのサラダを完成させる活動なので、自信をもって大きな声で英語を話す児童の姿が多く見られた。授業後には、野菜を育てている畑で「Egg plant!」「Peanut!」「Sweet potato!」等と野菜を指さしながら、楽しそうに仲間同士で話している姿を見ることができた。

この研究会で英語の「楽しさ」や各学年に応じた「楽しさの質の違い」について共通理解できた。研究討議を通して、高学年は、「心を動かす楽しさ」(知的好奇心をくすぐられる楽しさ)であるととらえることができた。

「身体全体を使った楽しい活動の重視」について

第5回全校研究会 10月3日(水)から

1年1組 授業者 HRT・ALT・JTE

Topic Number (3/3)

Activiteisでのゲームで身体を動かしたり、声を出したりする活動を多く取り入れ、3時間のトピックの中で順に聞き取りゲームから始めた。徐々にペアやグループで話すゲーム、最後に一人で話すゲームと仕組んだため、児童たちは抵抗なく英語で数を言えるようになった。本時のActiviteisは「グループ対抗ナンバーお知らせゲーム」で、早くゴールするためお互いに分からない単語を教え合うなど積極的に仲間とかがわる姿が見られた。また、教室の机を壁

側に寄せ、広く活動できるようにした。その結果、相談や教え合い、教師の所に聞きに来ること等の活動がダイナミックに展開できるようになり、身体全体を使った活動ができた。Warm-upでも Ten little pumpkins の歌を立ったり座ったり、タンブリンのリズムに合わせて発音したりと身体全体を使った活動ができた。

この研究会で低学年の児童たちにとって、HRTの All English やチャンツ、繰り返し単語の出るゲーム等英語が溢れる活動はとてもよいことが分かった。また、低学年だからこそ、英語の発音がうまく身に付いていくことが分かった。高学年では、発音だけでなく次第に文字への興味が増してきている。「書く活動」を英語活動の中でどのように扱うべきかを考える機会となったが、基本的には小学校段階では「書く活動」は行わないという共通理解を図った。

「児童が英語をもっと「話したい」「聞きたい」と意欲的に活動できる場の設定」について
第2回全校研究会 6月5日(火)から

3年1組	授業者	HRT・ALT・JTE
Topic	Body Parts	(3/3)

本時の活動は、身体の名前という児童にとって身近で興味のある内容を扱った。また、3年生という活動的な学年の特性を生かし、英語での歌やゲームを遊び感覚で楽しんで使うことができる内容を仕組んでいる。Activity でのゲームを『Body parts を使った福笑い』にすることで、福笑いの顔をうまく完成させたいという強い児童の思いを生かし、進んで英語を用いて仲間と話したり、聞いたりする活動の必然性が生まれると考えた。授業では、福笑いを完成させるために英語で伝え合う必要感を感じながら、笑顔で楽しく活動する姿が見られた。

過程	それぞれの過程での内容
Greeting	英語の始めのあいさつを行う。心構えをつくる。
Warm-Up	歌やチャンツ、簡単なゲーム等、無理なく英語に入るきっかけをつくる。前時を振り返り、本時につなぐ時間
Today's Topic	ALT、Time この後のActivityでの活動に必要な言葉や分 に慣れる時間。児童がやらされていると感じないテンポ やリズムが大切。
Activities	ゲーム活動等、本時の中心的な時間。必ずHRTによる中間評価を入れる。
Comment	評価の時間。3人からそれぞれ役割に応じた評価を行う。 高学年では、自己評価、相互評価を入れることもある。
Greeting	楽しい活動であったと振り返られるようなあいさつを行う。 次の時間が楽しめたという気持ちを大切に。

この研究会で、全職員が英語活動の1時間の授業の流れをつかむことができた。また、HRTは活動中に使う英語を逐一日本語に訳さない、できる限り英語を使うという指導方法をとることで、児童が英語の一語一語は聞き取れなくても全体として何となく分かる、何とかして分かりたいという姿勢をもつようにすることの大切さも確認することができた。今回の討議内容は、高学年の指導に直接生きる内容について研修できた。

第6回全校研究会 11月14日(水)から

6年1組	授業者	HRT・ALT・JTE
Topic	Christmas Card	(3/3)

これまでの他学年での全校研究会が大変生きる授業となった。中学校につながる6年生の活動であるとはいえ、難しい内容を扱って英語嫌いをつくってはならない。そこで、児童の願いをもとにした意欲的に活動できる題材(パソコンというツールの活用)、児童のアイデアや工夫を生かして主体的に活動できる場の設定(ペア学習)、自己成就感を味わえるような場の設定(カードの作成、印刷)、異文化理解につながる内容(クリスマス)を考えた。授業では、高学年であっても身体を動かす簡単なゲームで大きな笑い声や歓声に満ちた時間になり、英語に抵抗のある児童の心を解きほぐした。また、パソコンを2人で使うことによりお互いに顔をつきあわせて会話する姿が多く見られた。

この研究会からは、分かれば楽しいのであるから、積み上げやくり返しは大切であるが、英語の上達を目的とするトレーニングはしないこと。Activity で必要感のある会話を重視することを共通理解できた。さらに高学年では、児童の知的好奇心をくすぐるような手だて(本時ではツールとしてのパソコン)が必要であることも分かった。

教材・教具の開発

児童が英語をもっと「話したい」「聞きたい」と意欲的に活動できる場の設定が重要であることが全校研究会で明らかになった。そこで、トピックごとに内容が児童たちに分かり易く伝わり、活動の必然性を実感できるようにするために、教材・教具を準備することは大切である

と考えた。

今年準備した教材・教具には、市販のカードやフルーツ等の具体物、楽しい英語の歌のCD、心を揺さぶるような大型絵本等がある。しかしながら、学級担任が開発したゲームには市販のものではどうしても対応できない活動であったり、ALTの英語では説明しがたい発音のものがあつたりするため、HRT、ALT、JTEが自作したものもたくさんあつた。そのような教師の強い思いが児童の楽しい活動を支える土台になると考える。また、そのような教材・教具をトピックごとに整理し簡単に使用できるように保管している。

実践交流会における5年生の公開授業「町案内」では、体育館フロアー全面に、ALTの故郷であるカナダの町並みを衝立で間仕切りしたり、絨毯を敷いて道路を作ったりして再現した。活動の仕方やルールを説明するためのマップの拡大図やポイント獲得のための学習カードや各施設の紹介カード等はもちろん自作であり、環境設定の工夫に込められた教師の熱意を感じながら、一人一人の児童が意欲的に活動できた。

(3) ALTや地域人材の効果的な活用について

HRT・ALT・JTEの役割について

TTでの役割分担が曖昧だと、児童も不安で活動がスムーズに進まない。どのような活動にも応じた基本的な役割分担を明確にした。

【富加小学校の役割分担】

HRT：英語活動を主として進める。活動計画案を立て、1時間の流れをつくる。児童たち一人一人を支援し評価する。

ALT：ネイティブスピーカーとして、生きた英語を提供する。また、異文化の体現者として外国の様々な習慣や考え方と発想を児童に伝えることができ、異文化に対する興味を喚起する。

JTE：授業や打ち合わせ会でHRTとALTを調整する役割りを果たす。また、授業では、児童の反応を見ながらALTの言葉が通じてない場合やALTとうまくかわれない児童の補助をする。

実践交流会における5年生の公開授業「町案内」では、HRTは"O.K. Today's activity is LET'S GO TO ALYSON'S TOWN game". "The first student has a paper bag and the last student has a map".等、できるだけ英語を使って活動を進めた。また、"I have some comments". "I speak in Japanese".と、中間交流会や評価の主体者となっていた。あるいは、特に支援を必要とする児童に寄り添いながらも、全体を掌握して進めた。ALTは、ネイティブスピーカーとしての役割を果たしつつ、HRTやJTEとペアになってToday's topicのデモンストレーションをしたり、活動をレベルアップさせるための工夫を演技で見せたりした。終末にはALTから英語表現についての評価を行った。JTEは、ALTとペアになってToday's topicのデモンストレーションをしたり、活動が滞っているグループの支援や特に支援を必要とする児童への支援をしたりした。終末にはJTEとしてのグループ活動での様子について評価を行った。

打ち合わせ会の確保

TTを効果的に行うためには、3人の打ち合わせ会が必要不可欠である。本年度はどこまでの時間を生み出すか、どう行ったらより効果的であるかについて考えてきた。本校でHRTが英語活動案を立て活動を進めていくので、HRTがこの活動内容や意図をALTやJTEに説明する時間はとても大切である。そこでの話し合いでALTやJTEがさらによいアイデアを考え合い、3人のうち誰がどの教材や教具の準備や作成をするのかが決定される。したがって一つのトピックの前には必ず英語主任が打ち合わせ会を確保するように努めてきた。一覧表を職員室に掲示して、各担任が都合のよい時間を書き込むようにすることで、いつ誰が打ち合わせをしているのかを一目で分かるようにし、空いている時間を有効に活用できる等の工夫をして調整した。ALTとの直接の打合せは、HRTの英語研修にもなり、指導力向上の面においても有効である。

(4) 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

児童へのアンケート

2～6年生は4月英語活動が始まる前に、1年生は9月の始めに児童の英語活動に対する

意識を調査するためアンケートを実施した。調査の結果は以下のようになった。

(1) 英語の時間は楽しいですか？次から選びましょう。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
ア.たいへん楽しい	48%	47%	57%	19%	37%	15%	35%
イ.楽しい	52%	33%	30%	47%	35%	22%	35%
ウ.どちらかといえば楽しい	0%	12%	6%	21%	15%	31%	16%
エ.どちらかといえば楽しくない	0%	4%	0%	5%	10%	26%	8%
オ.楽しくない	0%	4%	8%	9%	3%	6%	5%

(2) (1)の答えの理由に一番近いものを次から選びましょう。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
ア.英語が話せたり、聞けたりできるようになるから	39%	27%	26%	17%	23%	9%	22%
イ.歌やゲームが楽しいから	35%	43%	53%	59%	52%	50%	50%
ウ.ALTのアリスン先生と一緒に活動できるから	4%	8%	11%	3%	6%	0%	6%
エ.英語はテキストがないから	0%	10%	0%	2%	3%	4%	3%
オ.書くことが楽しいから	22%	4%	2%	2%	3%	2%	4%
カ.英語は難しくてわからないから	0%	4%	4%	7%	6%	24%	8%
キ.歌やゲームや書くのは楽しくないから	0%	2%	2%	3%	2%	6%	3%
ク.話すこと・聞くことは楽しくないから	0%	2%	4%	5%	5%	7%	4%

(3) 英語の時間にどんなことをしてみたいですか？あてはまるものすべてに をつけましょう。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
ア.歌	61%	41%	62%	31%	42%	26%	42%
イ.ゲーム	65%	61%	57%	60%	74%	96%	70%
ウ.会話	22%	14%	25%	14%	19%	30%	20%
エ.書くこと	48%	37%	13%	12%	32%	22%	25%

上記の結果より、4月当初は全校の8割を超える児童が英語活動を楽しみにしていることが分かる。しかしながら5年生より急に英語活動が楽しくないと回答する児童が増えている。それは学年が上がるにつれ、内容が難しくなること、週1時間ではなかなか前回活動した内容が定着しないうちにどんどん次に進んでしまう不安感があること、自分自身の心を開きながら仲間とかかわる内容の多い英語活動になじめないこと等の要因が考えられる。

このようなアンケート結果を踏まえて、英語活動における児童の実態については以下のようにとらえた。

- ・英語の歌やゲームは楽しんで意欲的に活動することができる。
- ・色々な国の文化に興味をもち、「話したい」「聞きたい」という願いをもっている。
- ・学年が上がるにつれ、難しい内容の活動や、自己表現することには抵抗感をもっている。

3月に再びアンケート調査を実施した。調査の結果は以下のようになった。

英語の時間は楽しいですか？

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
たいへん楽しい	59%	60%	64%	29%	32%	19%
楽しい	35%	33%	23%	52%	37%	35%
どちらかという楽しい	7%	7%	10%	16%	24%	37%
どちらかという楽しくない	0%	0%	3%	2%	7%	8%
楽しくない	0%	0%	0%	2%	0%	2%

4月(1年生は9月)の結果と比べると、「楽しい」と答えた児童のうち「大変楽しい」に変容した児童が増加している。また、「楽しくない」や「どちらかという楽しくない」と感じていた児童は減少している。

今年度、英語活動の楽しさを追求してきた成果が数字からも明らかになった。

以下は、アンケート記述部分(抜粋 5・6年生)

楽しい理由

- ・英語を通して外国の文化の違いに触れることが楽しい。
- ・知らなかった英語が分かってきたり、話したりできるようになっていくことが楽しい。
- ・英語を通して仲間とゲームをしたり、競争したりする活動が楽しい。

楽しくない理由

- ・よく分からないのにどんどん進んでいってしまって不安がある。

これからの英語活動でやりたいこと

- ・外国の遊びや暮らし、外国の人と会話する等の交流・触れ合い活動がしたい。
- ・文字への興味があるので、書く活動もしたい。
- ・英語の歌やゲームをもっとたくさんしたり、パソコン等を使った学習もしたい。

よかったと思うこと

- ・アリソン先生（ALT）や外国の人と話ができるようになって自信がついた。
- ・たくさんの仲間、家族（親・兄弟姉妹）との英語での会話するようになった。
- ・自分のことについて、日本語では言えないことでも英語でならば話すことができるようになった。
- ・実際に、テレビのニュースの内容が分かったり、海外旅行で英語であいさつ等するときに役に立った。

保護者へのアンケート

学校の教育活動が保護者に理解されることは重要なことであるので、保護者に対してもアンケートを実施した。ほぼ、本校の取組に対して好意的であることと、英語への関心の高さが伺える。以下はその一部である。

家でお子さんと学校の英語の時間について話すことがありますか？また、その中身は？

- ・今日の学習で何をやったか話す。
- ・実際に活動で歌った歌を歌ってくれる。

今年度、英語活動が始まって、お子さんの様子で変化した点がありますか？

- ・英語の授業が楽しみと言うようになった。関心をもっていることが分かる。
- ・日常生活で英語を使うようになった。
- ・物の名前等を英語では何というか質問するようになった。

小学校における英語活動についてどのようにお考えですか？

- ・これからの時代、苦手意識がないうちに早めに学習して行ってほしい。
- ・英語に慣れることはよいことと思う。親しみがもてればよい。
- ・低学年のうち、日本語重視で教育していただきたい。

英語活動に関してご意見は？

- ・英語は大切なのでどんどんやってほしい。
- ・会話中心で楽しく学ばせてほしい。

(5) その他(中学校との連携、ICTの効果的な活用等)

中学校との連携については、授業の相互参観や教師の出前授業、意見交流会、指導内容の検討等を計画していたが、今年度はそこまではできなかった。来年度はぜひ実践したい。

ICTの効果的な活用については、ハード面では整備されつつあるが、ソフト面で不十分であり、今後は効果的なソフトウェアの導入を考えていく。

3 本校における取組の成果()と課題()

児童たちが英語活動を楽しみと感じられるような富加小プラン、HRT主体の英語活動年間指導計画の作成ができた。また、指導計画を作成したことで、指導に対する教師の自信が深まり、HRTが主体となり使う日本語を精選し、ほぼ英語で活動を進めることができるようになった。その姿は児童に対してもよい見本となった。

HRT、ALT、JTEによる打ち合わせ会では、スムーズに意思の疎通が行えるようになり、英語活動の1時間が充実したものになった。また、3人の教師の役割分担が明確になり、効果的な指導が行えるようになった。

職員全員で英語活動の1時間の流れを考え確立できた。そのため児童が活動見通しをもつことができ、意欲的に取り組めるようになってきた。

児童の実態にあった年間指導計画を作成したことで、児童がこれまで以上に英語活動を楽しみにし、生き生きとした笑顔で仲間とかかわりながら活動する姿が多く見られるようになった。児童の主体性をさらに育むために、児童自身が活動を振り返って活動の足跡を残したり、その足跡を次の活動に生かしたりする教師の評価の在り方を工夫していく必要がある。

授業以外の場でも英語に親しむ活動が児童の興味・関心を育てていくことにつながると考える。次年度は全校で取り組む活動の工夫や児童の意識をつなぐ掲示等の工夫をしていきたい。小学校での英語活動を中学校との関連の中で考えていく必要がある。小学校ではどのようなことを学んでいるのかを中学校に理解してもらおうと同時に、中学校の英語学習がどのように行われているのかを理解していく必要がある。小中学校交流会をもつなど中学校と連携して指導に当たっていきたい。